

令和4年度「英語教育実施状況調査」概要

調査の目的

平成29年3月に小学校及び中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領が告示。また、平成30年6月に「第3期教育振興基本計画」が閣議決定。

こうした背景の中、英語教育改善のための具体的な施策の現状について調査し、今後の国の施策の検討に資するとともに、各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てるために実施。

調査の対象等

○調査対象

各都道府県・市区町村教育委員会及び全ての公立小学校、中学校、高等学校
(義務教育学校、中等教育学校を含む)

※調査学校数: 小学校: 18,702校、中学校: 9,208校

高等学校: 3,280校(合計4,015学科)

普通科: 2,225学科、英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科: 135学科、
その他の専門教育を主とする学科及び総合学科: 1,655学科

○調査手法

文部科学省Web調査システム上で各調査対象より回答。

○調査実施基準日

特に指定がない場合、令和4年12月1日。

※本調査は、一部変更を行いながら平成25年度より実施している。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

※「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門教育を主とする学科及び総合学科」について、

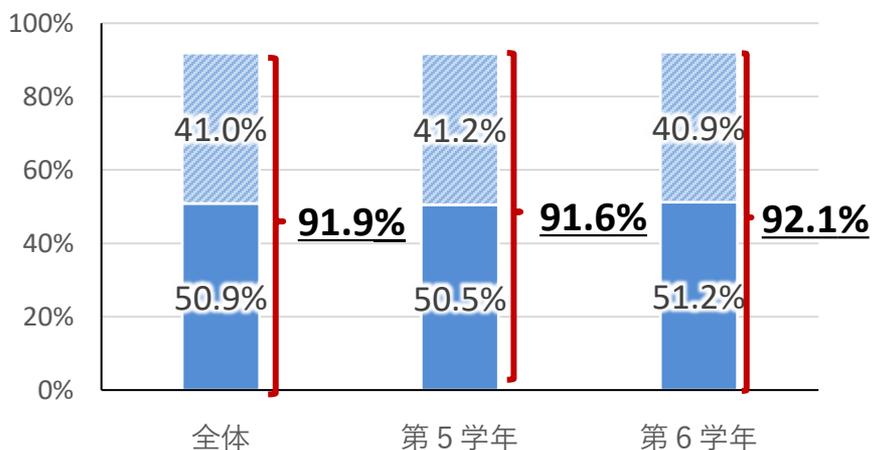
それぞれ複数の学科が設置されている場合は、その学校に設置されている「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門教育を主とする学科及び総合学科」ごとに1つずつの回答として集計している。

※今後、令和5年度全国学力・学習状況調査等の結果も合わせて、英語教育の改善・充実に向けて、さらに分析等を行う予定。

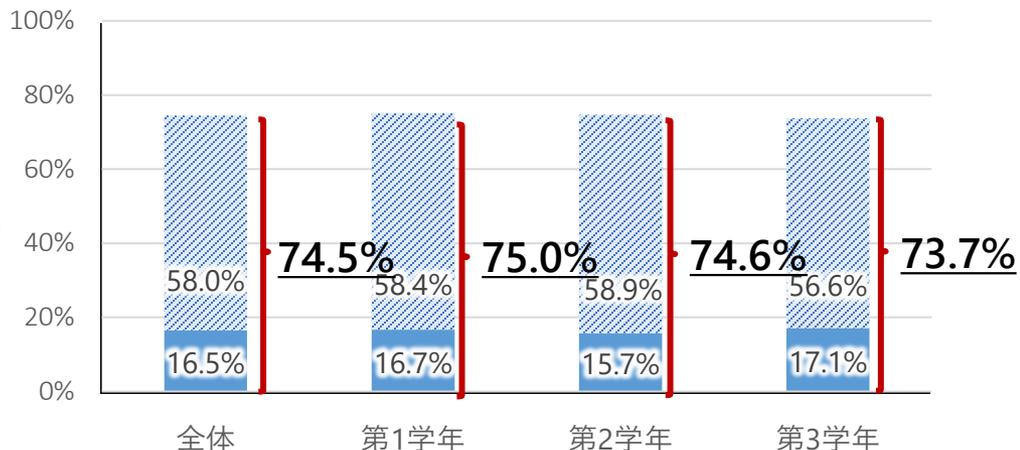
児童生徒の英語による言語活動の状況(R4年度調査)

- 小学校において、9割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 中学校において、7割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 高等学校において、全体では5割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。

【小学校】

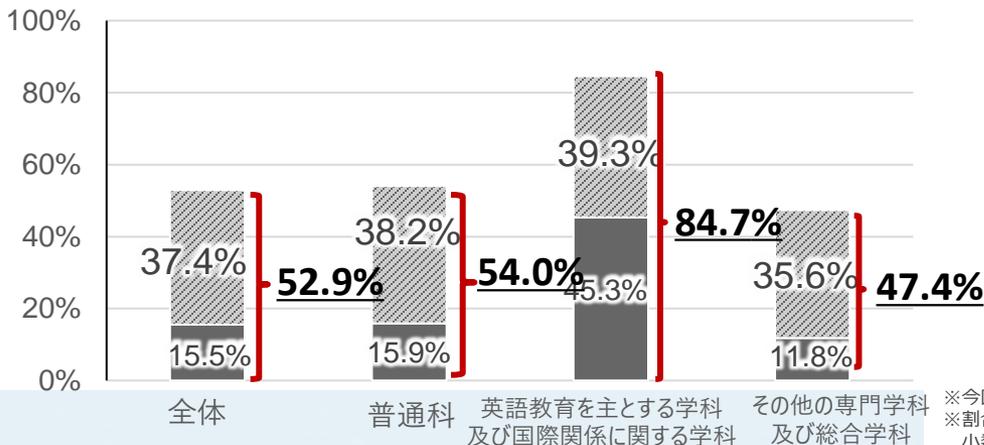


【中学校】



- 授業中、50%以上75%未満の時間、言語活動を行っている
- 授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている

【高等学校】



(参考)

○中学校学習指導要領(外国語)：目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○「言語活動」(小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブックから)

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというそうではない。言語活動は、言語活動について理解したり練習したりするための指導と区別されている。

※今回調査から回答の単位を学校単位としているため、昨年度(令和3年度調査)との比較はできない。

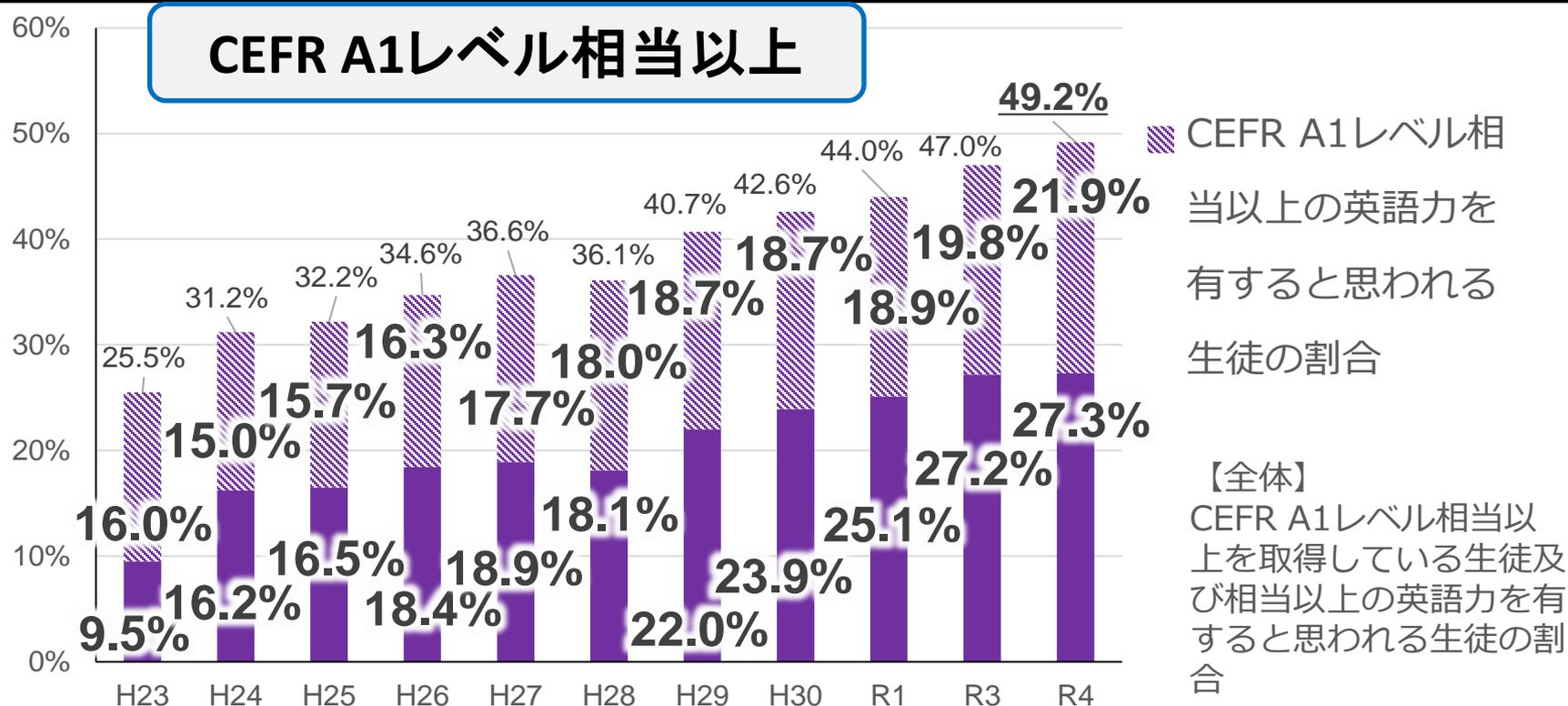
※割合の合計は、小数点第2位切り上げ前の数字を合計して算出しているため、

小数点切り上げ後の割合の和と一致しないことがある。

※「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門学科及び総合学科」のそれぞれの中で学科が複数ある場合は、「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門学科及び総合学科」ごとに1つずつの回答として集計している。

中学生の英語力(R4年度調査)

- CEFR A1レベル（英検3級）相当以上を達成した中学生の割合は、目標（50%）に対して49.2%となっているものの、着実に改善が進んでいる。一方で、都道府県・指定都市による差がある。特に課題が見られる自治体の状況を把握・分析し、英語教育の改善・充実につなげることが必要。
- CEFR A1レベル相当以上の中学生の割合は、昨年度比2.2ポイント上昇している。

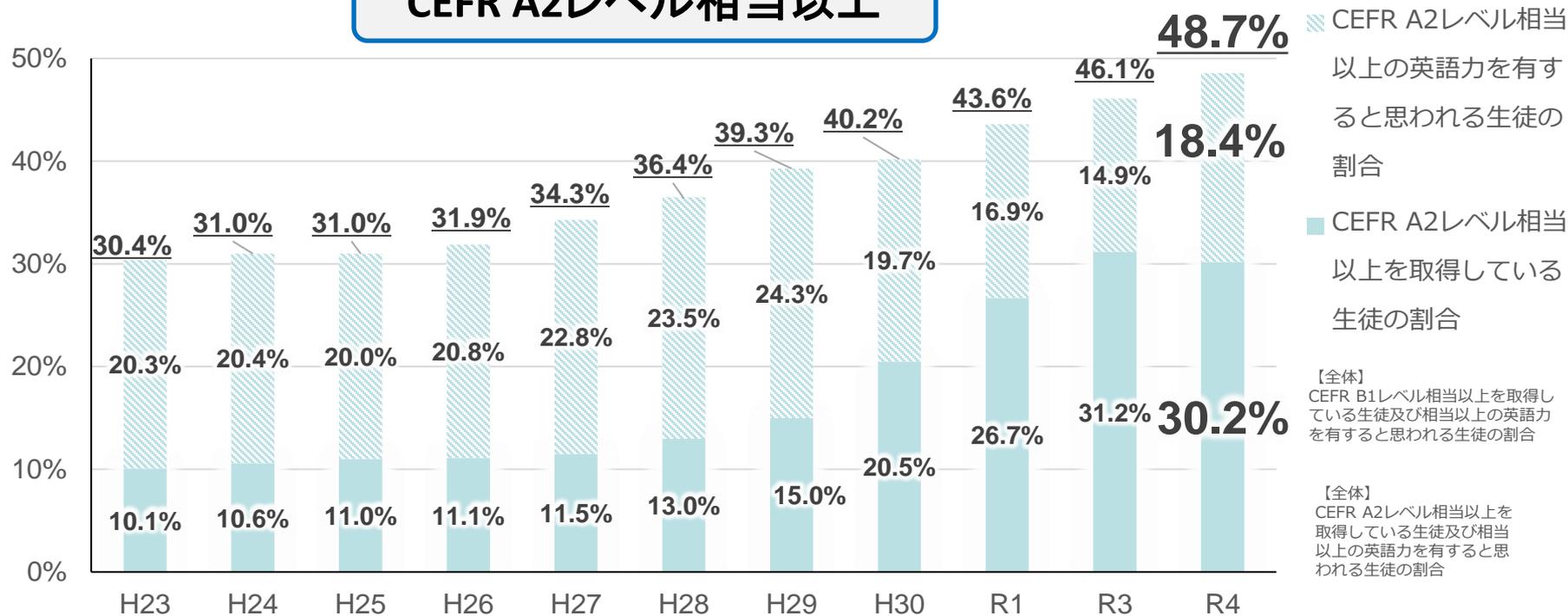


※「第3期教育振興基本計画」（H30～R4）では、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合50%を目標としている。
 ※「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等を取得していないが、2技能または3技能を測る試験のスコア、公式な記録としては認定されない試験のスコア、CAN-DOリストに基づくパフォーマンステストの結果、各教育委員会でモデル校での検証に基づいて定めた目安等により、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒を指す。
 ※上のグラフでは、中学校第3学年の生徒に占める割合を算出している。
 ※H23・H24の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」に基づく。

高校生の英語力(R4年度調査)

○CEFR A2レベル（英検準2級）相当以上を達成した高校生の割合は、**目標（50%）**に対して**48.7%**となっているものの、**経年で着実に改善が進んでいる。**

CEFR A2レベル相当以上



※「第3期教育振興基本計画」(H30~R4)では、高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上を達成した高校生の割合50%を目標としている。

※「CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等を取得していないが、2技能または3技能を測る試験のスコア、公式な記録としては認定されない試験のスコア、CAN-DOリストに基づくパフォーマンステストの結果、各教育委員会でモデル校での検証に基づいて定めた目安等により、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒を指す。

※上のグラフでは、高等学校第3学年生徒に占める割合を算出している。

※H23・H24の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」に基づく。

生徒の英語力向上に関する分析(R4年度調査)

○生徒の英語力の向上には、相関分析や取組の変化に着目した経年変化分析の結果、「**生徒の言語活動の割合**」「**英語教師の英語力や発話の割合**」「**ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動）**」等が影響を与えている。

○今回新たに把握した、**CEFR B1（英検2級）レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が高い高等学校**では、**ICTを活用した言語活動**や**ALTによる授業外の活動**を行っている学校が高い割合でみられた。

⇒生徒の英語による言語活動を増やすこと、言語活動の取組でICTやALTを効果的に活用すること、教師が英語力を高め授業で積極的に英語を使用することなどが、生徒の英語力の向上に必要。

※今後、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果等とあわせて、教育委員会や学校等の取組と生徒の英語力の関係についてさらに分析予定。

生徒の英語力と各項目の相関（中学校・高等学校）

	生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合	「CAN-DOリスト」形式による学習到達を公表している学校の割合	小学校/中学校と連携している学校の割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を50%以上の授業で実施した学校の割合	CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合（※1）
中学校	0.45*	0.37*	0.34*	0.37*	0.13*
高等学校	0.33*	0.27	0.18	0.33*	0.20*

*5%水準で有意（両側）

（※1）のみ学校単位の相関（その他は都道府県単位）

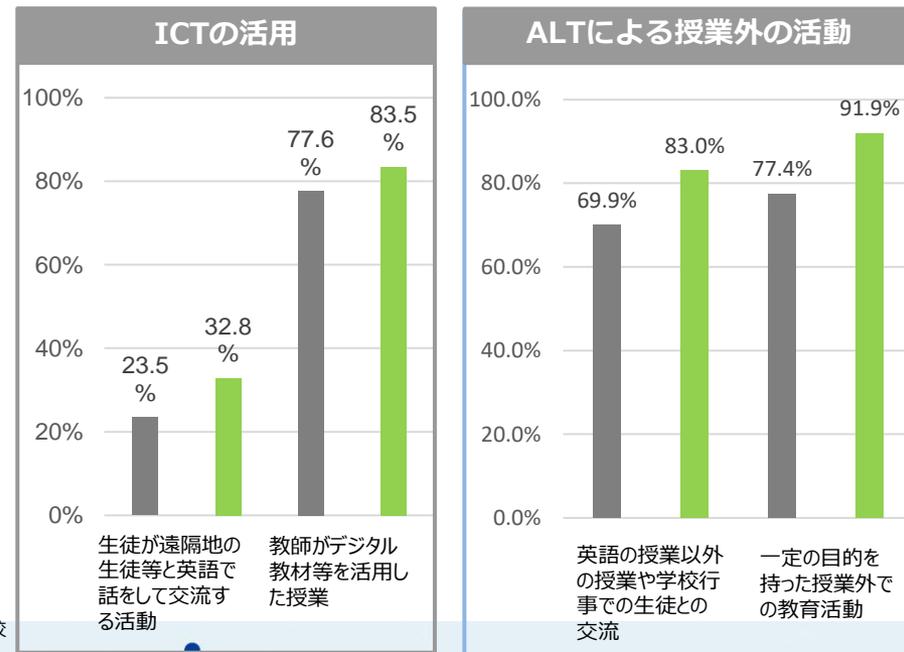
【参考】経年で伸びが見られた主な取組（※2）（中学校の例）

生徒の英語力に影響を与えた可能性が高い取組	差分の差 ^{※3}
授業において、生徒が英語で言語活動をしている時間の割合（第3学年）	0.073
英語担当教師の英語による発話の割合（第3学年）	0.052
ALTによる授業外の活動（英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流）	0.045

※2 政令指定都市立の中学校について、R元年度とR4年度における取組の変化に着目し比較。上記の取組が増加している学校で、CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の生徒の割合が増加がみられている。

※3 差分の差 = (取組に変化があった学校群の英語力の差分) - (取組に変化がなかった学校群の英語力の差分)
例えば、「0.073」は、取組に変化があった学校群の方が、取組に変化がなかった学校群より、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合の増加量が7.3%高かったことを示す。ただし、着目した取組以外の取組や外部環境の影響を受けている可能性もあることには留意が必要。

CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が平均より高い学校の傾向（高等学校）



生徒の英語力向上に関する分析(R4年度調査)

生徒の英語力と各項目の相関（中学校・高等学校）

	生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合	「CAN-DOリスト」形式による学習到達を公表している学校の割合	小学校/中学校と連携している学校の割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を50%以上の授業で実施した学校の割合	CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合（※1）
中学校	0.45*	0.37*	0.34*	0.37*	0.13*
高等学校	0.33*	0.27	0.18	0.33*	0.20*

*5% 水準で有意（両側）

※2 政令指定都市立の中学校について、R元年度とR4年度における取組の変化に着目し比較。上記の取組が増加している学校で、CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の生徒の割合に増加がみられている。

※3 差分の差 = （取組に変化があった学校群の英語力の差分） - （取組に変化がなかった学校群の英語力の差分）

例えば、「0.073」は、取組に変化があった学校群の方が、取組に変化がなかった学校群より、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合の増加量が7.3%高かったことを示す。ただし、着目した取組以外の取組や外部環境の影響を受けている可能性もあることには留意が必要。

小・中・高における外国語教育の目標

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの

言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

小外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

中外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

高外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

「言語活動」とは

外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。

したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（2017年 文部科学省）

「言語活動」に関して「小学校学習指導要領」

- ・コミュニケーションを行う目的，場面，状況などを明確に設定
- ・簡単な語句や基本的な表現を用いながら，友達との関わりを大切に
にした
- ・具体的な課題等を設定し，児童が外国語によるコミュニケーション
における見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的
や場面，状況などを意識して
- ・言語活動で扱う題材は，児童の興味・関心に合ったものとし，
国語科や音楽科，図画工作科など，他教科等で児童が学習した
ことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたり

「言語活動」に関して「中学校学習指導要領」

- ・実際に英語を用いた言語活動を通して
- ・実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。
- ・言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- ・各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定



「言語活動」に関して「小学校学習指導要領」

- ・「自分の考えや気持ちなど」を話して伝える言語活動では、聞いたり読んだりしたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えることが大切である。
- ・「社会的な話題」としては、環境問題、世界情勢や平和に関する様々な状況、人権問題、科学技術の発達、自然との共存、社会貢献などを扱うとともに、関連する他教科等での学習内容を活用することも考えられる。それらを話題として実際の生活において必要な場面を想定した言語活動
- ・第1学年において言語活動を行う際には、小学校でも慣れ親しんだことのあるような身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げる。



「言語活動」の設定について

必然性（目的意識）

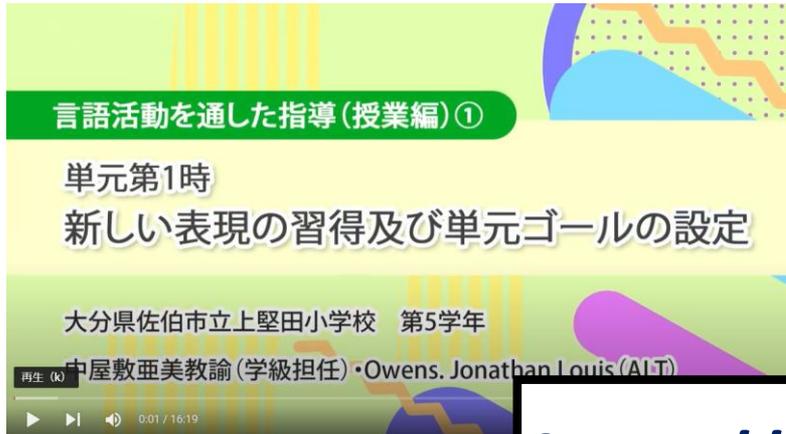
相手意識

ほんもの

コミュニケーションの楽しさや意義

大それた「**言語活動**」を設定する必要はありません。そのようなことを求めたら、授業準備が大変。他教科等も指導している学校教員には大変な作業です。だから、子供の身近な「**言語活動**」でよいのです、他教科等や学校や地域行事と関連させるだけで、立派な設定になります。言語活動の設定の**ポイント**をつかんでいれば、大丈夫。

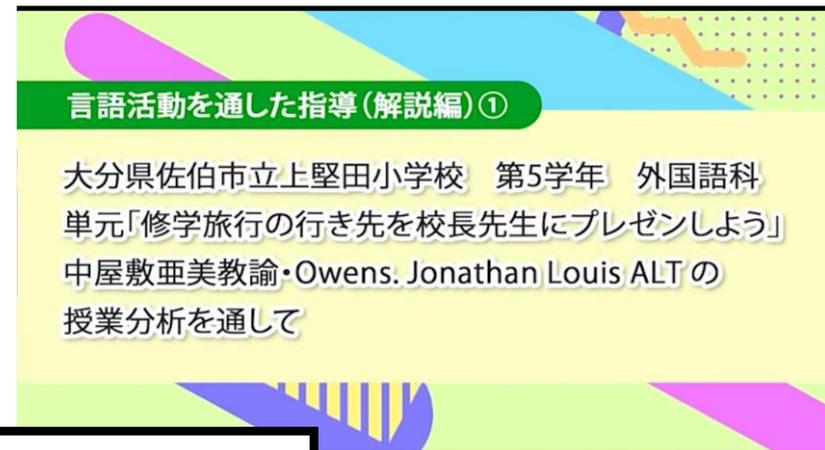
文部科学省mextchannel 「外国語教育はこう変わる！」



実際の授業を通して
言語活動の設定
のポイントを理解
する

<https://youtu.be/XXblaum9uyQ>

上記授業の解説を
通じて言語活動の
設定のポイントを
深く理解する



<https://youtu.be/clFO5cvDVeY>

単元目標

来年度の修学旅行について自分たちの希望を校長先生に伝えるために、修学旅行で行きたい場所について、内容を整理した上で、話すことができる。また、行きたい場所についての短い話を聞いて、その概要を捉えることができる。

①「行きたい場所を伝えよう」

行きたい県(九州)について、教師のSmall Talkを聞いたり、教師とやり取りをすることを通して、行きたい場所を尋ねたり答えたりする。

②「修学旅行で行きたい場所について伝えよう」

来年の修学旅行の訪問地について、教師や友だちと何度もやり取りすることを通して、尋ねたり答えたりすることができる。

③「修学旅行で行きたい場所について伝え合おう」

来年の修学旅行の訪問地について、教師や友だちとのやり取りを通して、なぜそこに行きたいかなどの自分の考えを加えて伝えることができる。

④「プレゼンをして、自分の希望を伝えよう」

修学旅行で行きたい場所について、プレゼン形式で写真などの情報を見せて友だちに伝える活動を通して、自分の考えや気持ちを話すことができる。

⑤「プレゼンを聞いて、友だちの希望を知ろう」

修学旅行で行きたい場所について、教師や友だちのプレゼンを聞いたり、やり取りしたりする活動を通して、話の概要を理解することができる。

「聞くこと」「知識・技能」

⑥「プレゼンを聞いて、質問をしよう」(学年合同授業)

修学旅行で行きたい場所について、隣のクラスの友だちとプレゼンを聞いたり、やり取りしたりする活動を通して、話の概要を捉えることができる。

「聞くこと」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

⑦「プレゼンをレベルアップさせよう！」

修学旅行で行きたい場所について、教師や友だちと尋ねたり答えたりする活動を通して伝えたい内容を整理し、行きたい場所やしたいことを紹介することができる。

「話すこと」「知識・技能」

⑧「修学旅行の行き先の希望を校長先生に伝えよう！」

修学旅行に行きたい場所について、校長先生に写真や絵、簡単な表現を用いてプレゼンする活動を通して、行ってみたいところやしたいことなどを内容を整理して紹介することができる。

「話すこと」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

選ばれたチームの発表

ほんもの

I want to go to Bungotakada City. I want to go to Showa no machi.
You can eat school lunch in Showa. It's delicious. You can see old
snack. I like Pekochan candy. Do you like Pekochan candy?

You can touch of Yes, I like Pekochan candy. And I like Pekochan.

fun. I want to go to Bungotakada City. Thank you.

I like Apollo.

Sweets, only Pekochan candy?

Any other snack?

※「ペコちゃん」は株式会社不二家の登録商標です。

※「アポロ」は株式会社明治の登録商標です。

Wow, Apollo chocolate. Good.

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

ウ 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にした体験的な言語活動を行うこと。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1) 指導計画の作成上の配慮事項

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

単元名

ツアープランナーになろう

(Junior Sunshine 6 Lesson 3 Where do you want to go?)

単元の目標

- I want to go to ～. I want to see/eat ～. 等の自分の行きたい場所やその理由などについて伝える語句や表現を理解することができる。
- 校長先生や担任に伝わるように工夫しながら修学旅行で自分の行きたい場所について伝えることができる。
- 校長先生や担任に伝わるように工夫しながら修学旅行で自分の行きたい場所について伝えようとする。

単元計画

- ① 単元ゴールを知り、行きたい場所を尋ねたり答えたりできる。
- ② 行きたい場所について伝え合うことができる。
- ③④⑤ 相手がよく分かるように工夫して行きたい場所について伝え合うことができる。
⑤「話すこと[発表]」について「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」で記録に残す評価
- ⑥ 相手がよく分かるように工夫して行きたい場所について伝えたり、行きたい場所の理由等を例文を参考に書いたりできる。
「書くこと」について「知識・技能」で記録に残す評価
- ⑦ 校長先生や担任に自分が行きたい場所の魅力を伝えるために、行きたい場所やその理由について、考え等を伝えることができる。
「話すこと[発表]」について「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」で記録に残す評価

単元計画

- ① 単元ゴールを知り、行きたい場所を尋ねたり答えたりできる。
- ② 行きたい場所について伝え合うことができる。
- ③④⑤ 相手がよく分かるように工夫して行きたい場所について伝え合うことができる。
⑤「話すこと[発表]」について「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」で記録に残す評価
- ⑥ 相手がよく分かるように工夫して行きたい場所について伝えたり、行きたい場所の理由等を例文を参考に書いたりできる。
「書くこと」について「知識・技能」で記録に残す評価
- ⑦ 校長先生や担任に自分が行きたい場所の魅力を伝えるために、行きたい場所やその理由について、考え等を伝えることができる。
「話すこと[発表]」について「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」で記録に残す評価

第4時の流れ

- ①アルファベット・ジングルを言う。(WCデジタル教材活用)2分
- ②単元のゴールを確認し、指導者の行きたい場所についての話を聞いて評価する。4回 7分
- ③前回授業の自身の発表動画を視聴し、工夫点を考え、工夫できそうなことをWSに記載する。4分
- ④ペアワーク1回目3分
- ⑤中間指導1回目7分
- ⑥ペアワーク2回目3分
- ⑦ペアワーク3回目2分
- ⑧中間指導2回目4分
- ⑨ペアワーク4回目2分
- ⑩中間指導3回目3分
- ⑪自身で発表を録画して提出する。2分

第4時

児童1

1回目

I want to go to aquarium.

I like fish.

I want to see dolphins.

Do you like fish?

第5時

児童1

I want to go to Kagoshima aquarium.

I like aquarium.

I want to see fish.

Do you like fish?

I want to see dolphins.

Do you like dolphins?

You can see dolphin show.

I want to go to aquarium.

第4時

児童4

I want to eat Tonkatsu.
Do you like Tonkatsu?
I like Tonkatsu.
It's delicious.

第5時

児童4

I want to go to Kagoshima.
It's famous for *Tonkatsu*.
I want to eat *Tonkatsu*.
Do you like *Tonkatsu*?
You can eat *Tonkatsu*.
I like *Tonkatsu*.
It's delicious.

